

G1大阪杯好走傾向

※2017年のG1昇格以降のデータ

血統傾向

1. 父:ディープインパクト×母父:米国型

特に母父がヴァイスリージェント系かボールドルーラー系(APインディ系含む)

↓↓↓

【3・2・1・9・/15】

勝率20% 単回率620%

複率40% 複回率177%

2. 母父が米国型

過去7回の優勝馬全てが該当。

※キタサンブラックは母父プリンスリーギフト系ですが、
ナスルーラ系のスピード持続力強化血統なので
ボールドルーラー系と同様の分類とします。

3. 母父が米国型の牝馬

【2・3・0・2/7】

勝率28.6% 単回率232%

連対71.4% 複回率157%

距離実績

・1800m以下の重賞で3着以内の実績

該当実績を持たず馬券に絡んだのは・・・

1. 2000m以外に出走経験が無かったジャックドール

2. 出世が早すぎて出走経験が無かったレイパパレ

(1600と1800で4連勝してOP入り)

3. 道悪競馬でコントレイルが走れなかった年のモズベッロ

上記の3頭のみ。

ただし、その3頭も全て母父は米国型でした。

脚質

過去7回で、逃げ・先行は...

【5・4・2・17/28】

勝率17.9% 単回率353%

複率39.3% 複回率134%

このうち、母父が米ヴァイスリージェント系に限れば

【2・3・0・0/5】で連対率100%

連軸候補はこれに該当する馬(居ればですが)

G1大阪杯2024 注目馬

・スタニングローズ(5歳牝馬)

父:キングカメハメハ

母父:クロフネ(米ヴァイスリージェント系)

前走は珍しくダッシュがつかず後方からの競馬でしたが、
本来は先行して押し切る競馬がスタイルの馬。

このコースで行われた秋華賞の優勝馬で、
1800m重賞勝ち馬。(マイル重賞でも3着実績)

今回は長欠明けでどうなるか不安はありますが、
ノーザンファームの外厩仕上げなら警戒は怠れません。

・ハーパー(4歳牝馬)

父:ハーツクライ(Tサンデー系)

母父:米APインディ系

祖母父:米ミスプロ系

母父と祖母父の両方に米国型を持つハーツクライ産駒に
18年の優勝馬スワーヴリチャードがおります。

マイル重賞勝ちの実績があり、安定した先行力と
持続力を発揮できる能力は、大阪杯と言うレースに
適性が高い能力です。

・プラダリア

父:ディーピンパクト

母父:米ヴァイスリージェント系

祖母父:米フォーティナイナー系

今年のメンバーでは血統評価最高。
問題は2000m未満への出走経験がない点と、
典型的なG2ハンターである可能性がある事。

それでも好位から器用に立ち回れるタイプで、
仕上がりも勝負仕上げと言ったイメージ。

メンバー的に先行馬手薄な構成であり、
血統と展開を味方にG1初好走の可能性も。

その他には・・・

・父が米国型ノーザンダンサー系で
1800m重賞に3度の好走実績を持つジオグリフの復活。

・ベラジオオペラは、父にスプリント血統の
ロードカナロアを持つマイラー牝系の出身馬。
すでに1800m重賞を勝っており、当コース重賞でも
横山和生騎手で先行して押し切り勝ちの実績。

スピード能力はダービーで証明済みであり、
軽い晩成傾向のある父と牝系ファミリーを考えれば
いよいよ本格化を迎えた可能性も十分に考えられます。

・ルージュエヴァイユは昨年10人気3着と激走した
ダノンザキッドと同じジャスタウェイ産駒。
母系の配合が少し重いイメージはありますが、
母父フランケルはスーパーマイラーで、
母方にデインヒル(ダンチヒ系)のクロスを保持。

父ジャスタウェイ×母父デインヒル系と言う
ダノンザキッドと通じる部分があります。

1800m重賞で2着2回の実績もあり、
レース相性がいい牝馬でもあります。

軽視するよりも、激走に期待する方が
馬券的にレースを楽しめそうだと考えております。

最終結論はレース当日のEZ-WIN予想にて公開です。